

飼料用米の利用・需要拡大に向けた取組事例

■ 採卵鶏	常盤村養鶏農業協同組合（トキワ養鶏）（青森県） . . .	1
■ 肉 牛	立花牧場（青森県）	2
■ 豚	株式会社フリーデン（岩手県）	3
■ 肉 牛	有限会社キロサ肉畜生産センター（岩手県）	4
■ 肉用鶏	株式会社ニチレイフレッシュファーム（岩手県）	5
■ 豚	田尻飼料用米利用推進協議会（宮城県）	6
■ 豚	ポークランドグループ（秋田県）	7
■ 肉 牛	株式会社ゆりファーム TMRセンター（秋田県）	8
■ 豚	株式会社平田牧場（山形県）	9
■ 肉 牛	株式会社なごみ農産（山形県）	10

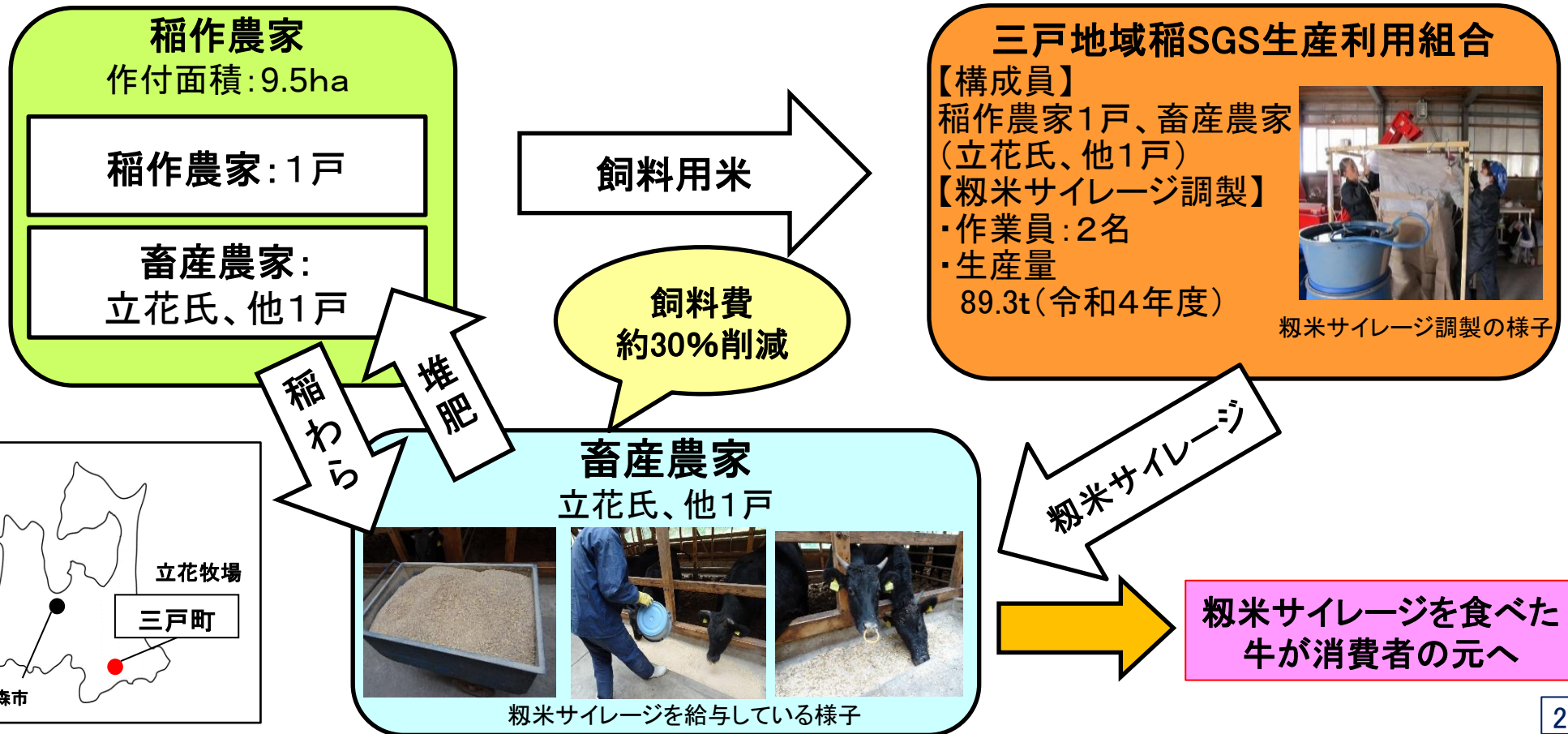
【採卵鶏】（青森県 常盤(ときわ)村養鶏農業協同組合《略称:トキワ養鶏》）

- トキワ養鶏では、地域の飼料自給率向上や循環型農業の推進を目的として、平成18年から飼料用米の取組を開始。
- 飼料用米は、自場で配合飼料に混合して利用。飼料用米を68%配合した国産原料80%以上の飼料を国産鶏に給与し、生産された卵は、「こめたま」(平飼い)、「青い森のこめたま」(ケージ飼い)として、販売。
なお、「こめたま」はインターネット、生協等での限定販売。
- 「こめたま」以外の卵(通常卵)を生産する採卵鶏にも、飼料用米を20%以上配合した飼料を給与。



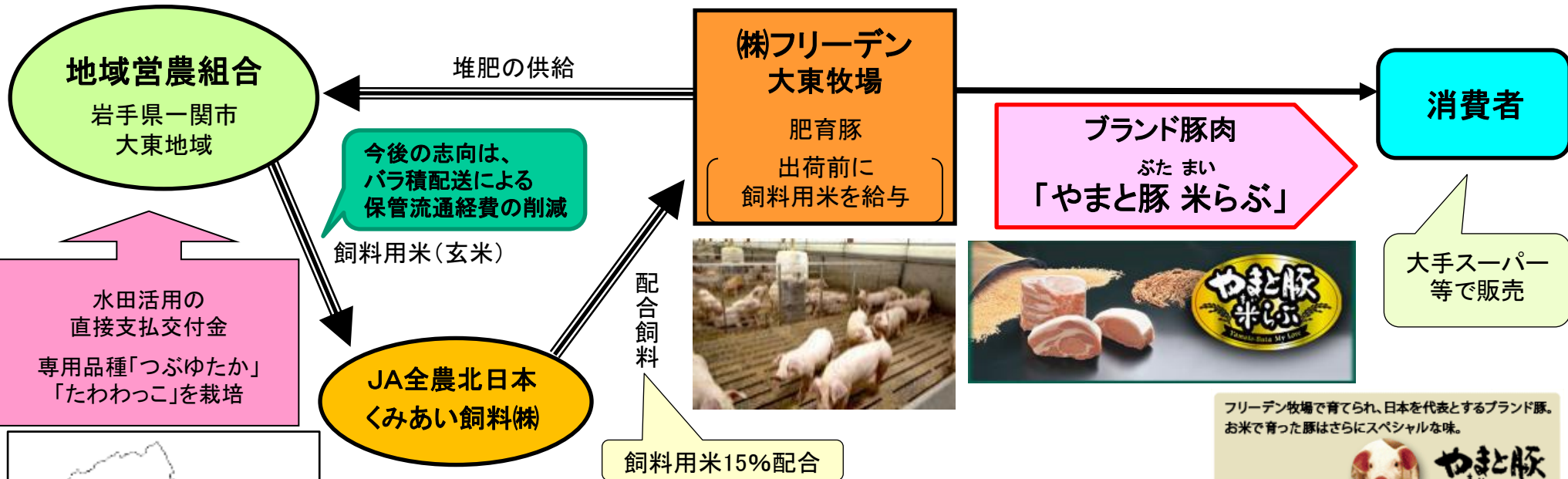
【肉牛】（青森県 立花牧場）

- 立花牧場は平成28年から飼料用米（粳米サイレージ）の生産・利用を開始。畜産農家と稲作農家が連携し「三戸地域稲SGS生産利用組合」を設立。
- 「粉碎・加水・乳酸菌添加」に加え、入念な脱気を行うなど丁寧な調製を行うことで、良質な飼料用米（粳米サイレージ）を生産し、牛の嗜好性も良好。配合飼料の一部を粳米サイレージに代替（肥育牛で約20%配合飼料を代替）。
- 第4回全国自給飼料生産コンクールにおいて「日本草地畜産種子協会会長賞」を受賞。
- 飼料用米（粳米サイレージ）の利用により、飼料費が約30%削減（令和4年度時点）。



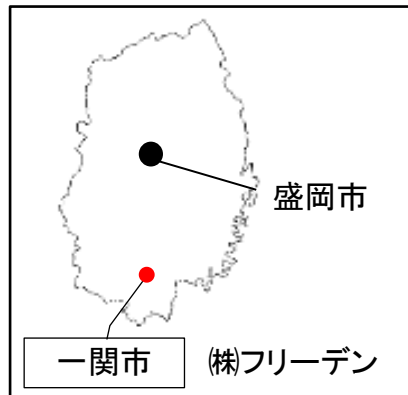
【豚】（岩手県（株）フリーデン）

- 湿田等の条件不利水田での新たな生産調整作物の模索、飼料自給率向上及び環境保全を目的として、平成15年に東京農業大学、（株）フリーデン、旧大東町、JA等を構成員とする「大東町飼料用米生産プロジェクト委員会」を立ち上げ、飼料用米の取組を開始。その後、平成18年に地域営農組合等と「フリーデングループ飼料米利活用推進協議会」を設立し、（株）フリーデンの堆肥を活用した資源循環型の飼料用米生産を推進。
- （株）フリーデンでは、JA全農北日本くみあい飼料（株）が飼料用米を15%配合した飼料を、出荷前の肥育豚に給与。
- 生産した豚肉は、「やまと豚米らぶ」として、首都圏を中心としたスーパーで販売。
- （株）フリーデンが利用する飼料用米の作付面積は、平成19年の10.6haから令和4年には146.8haに拡大。



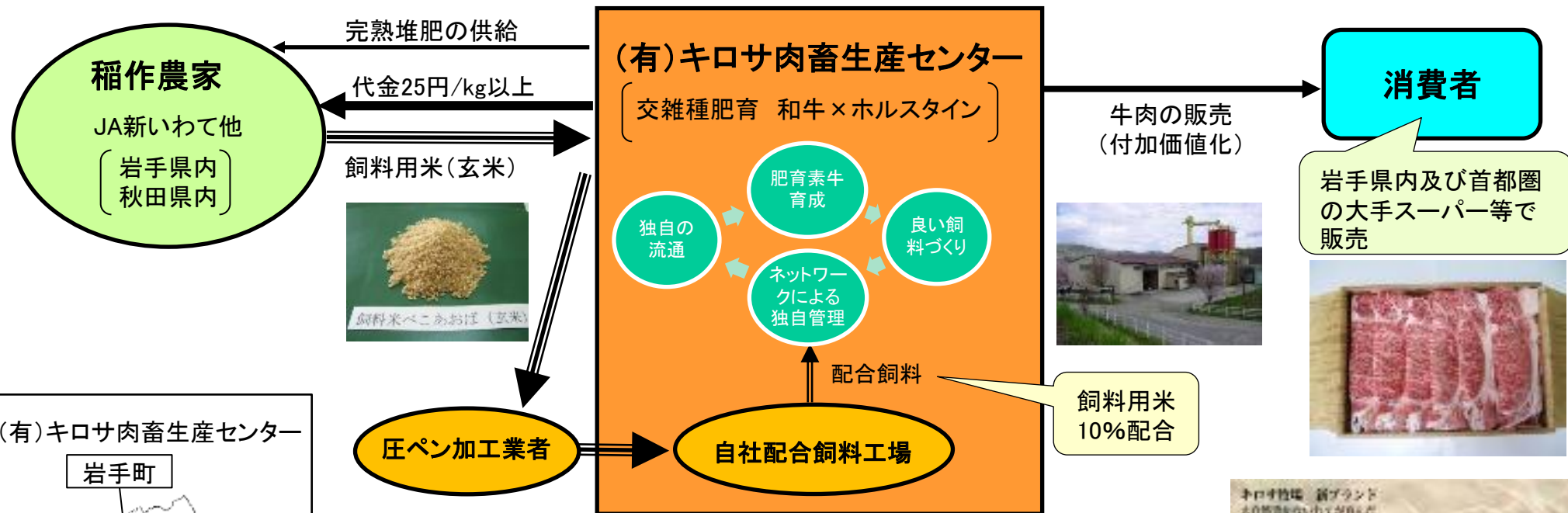
○ 一関市大東地域の飼料用米の生産状況

	H19	H30	R元	R2	R3	R4
作付面積 (ha)	10.6	131.0	130.8	138.3	140.7	146.8
生産量 (t)	59.1	637.1	706.6	684.9	717.3	734.4
単収 (kg/10a)	558.0	486.1	540.2	495.1	509.6	500.0



【肉牛】（岩手県（有）キロサ肉畜生産センター）

- （有）キロサ肉畜生産センターでは、とうもろこしの代替として安定した飼料原料の確保を検討した際に、飼料用米に注目。平成21年に飼料用米の試験給与を行い、平成22年から本格的に運用を開始。
- JA新しいわて他、岩手県内の生産農家や企業、秋田県内の企業から飼料用米（玄米）を購入し、県内の業者に加工を委託。加熱圧ペンされた飼料用米を自社配合飼料工場で混合し、飼料用米を10%配合した飼料を肥育牛（肥育後期）に給与。
- 生産した牛肉を、玄米育ち「岩手めんこい黒牛」として、主に岩手県内及び首都圏で販売。



○ 岩手県、秋田県内のキロサが利用する飼料用米の生産状況

	H21	H22		H30	R元	R2	R3	R4
作付面積(ha)	7	171	～	298	298	345	269	224
生産量(t)	33	905		1,471	1,309	1,625	1,739	1,317
単収(kg/10a)	471	529		493	439	471	647	588



【ブロイラー】（岩手県（株）ニチレイフレッシュファーム）

- （株）ニチレイフレッシュファームは、循環型農畜産業の構築を目指し、「飼料米プロジェクト」を立ち上げ、生（農家、農協）・官（県、町）・民（メーカー＆流通）コラボの新しいビジネスモデルを構築。
- 「飼料米プロジェクト」は、農場で発生した鶏糞を有機質肥料に加工、それを水田に施肥し、鶏の餌となる飼料米を育て、飼料に配合して鶏に給餌するという耕畜連携による循環型農畜産業プロジェクト。当初（平成22年）は、100haでスタートし、令和4年には254haまで拡大。
- 地元農家が生産する飼料米で育った同社ブランドの純国産鶏種「純和鶏」は、当初は一部店舗でしか販売できなかったが、飼料米の作付面積の増加に伴い生産量も増加（年間約140万羽出荷）し、現在では大手量販店や大手外食チェーンとのコラボレーションで販売するなど幅広く展開。
- 飼料米給餌による肉用鶏の生産から、メーカーや流通業者への出荷を介して全国の消費者のもとへ届けることを実現しており、生産農家から全国の消費者までが一つのサイクルでつながるプロジェクト。

取組内容

生（農家、農協）・官（県、町）・民（メーカー＆流通）コラボの新しいビジネスモデルを構築

「飼料米プロジェクト」
飼料米によって生産された「純和鶏」を、お店で販売し消費者に届ける、循環型農畜産業プロジェクト

サプライヤー

メーカー
（株）ニチレイフレッシュ

流通・小売り

スーパー・外食チェーン
地元企業・産業など

国民

消費者

（学校給食への食材提供により、食育の取組も展開）

生産者

養鶏場
（株）ニチレイフレッシュ
ファーム洋野農場

鶏糞を有機質肥料に加工し、地元農家の飼料米水田に還元

	面積	使用量
H22	100ha	511t
R4	254ha	1,877t



地方自治体等

岩手県

洋野町

生産農家

農協

飼料米給餌
飼料自給アップ



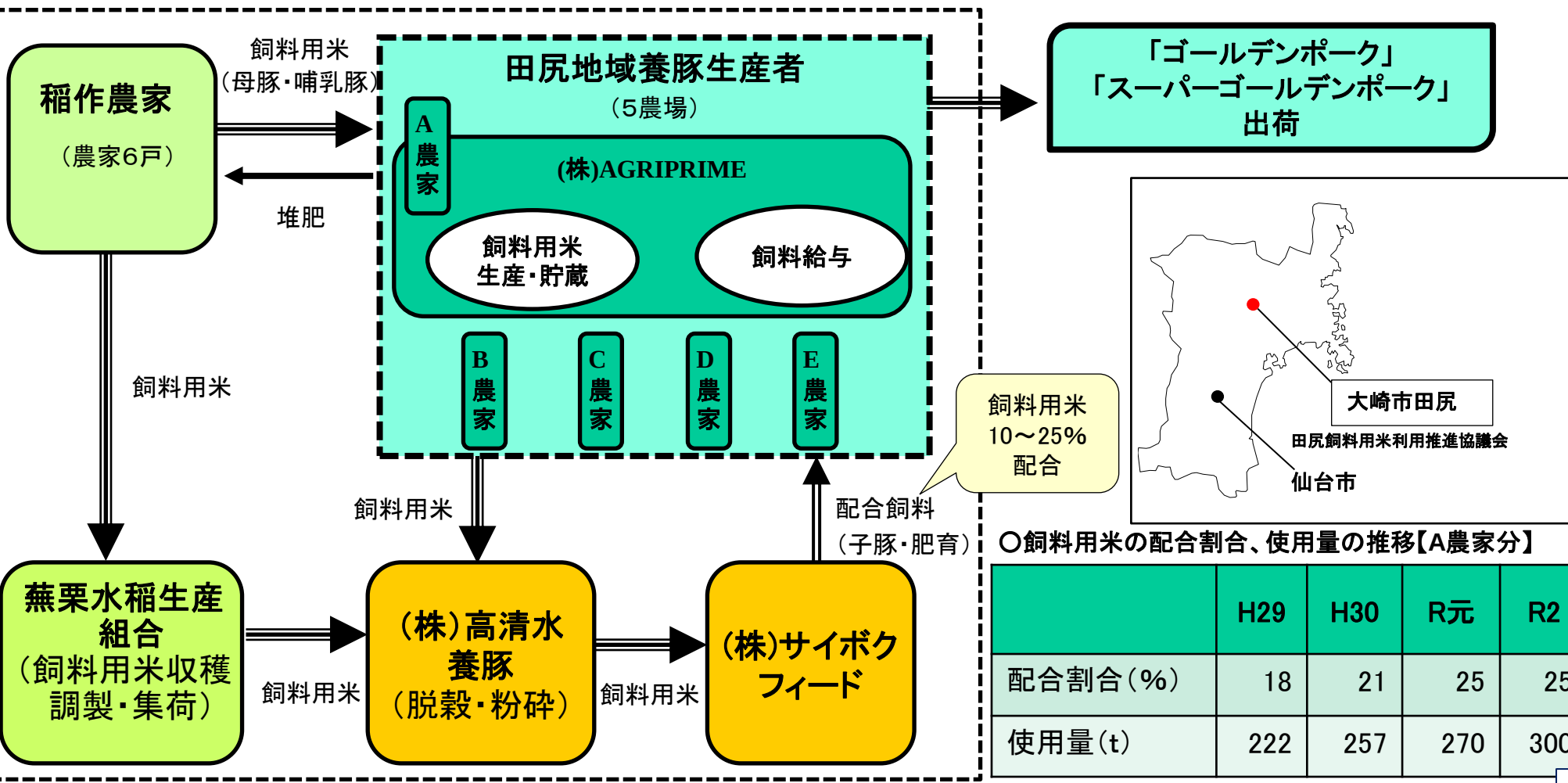
純和鶏

農家のモチベーション
& 飼料米生産量アップ



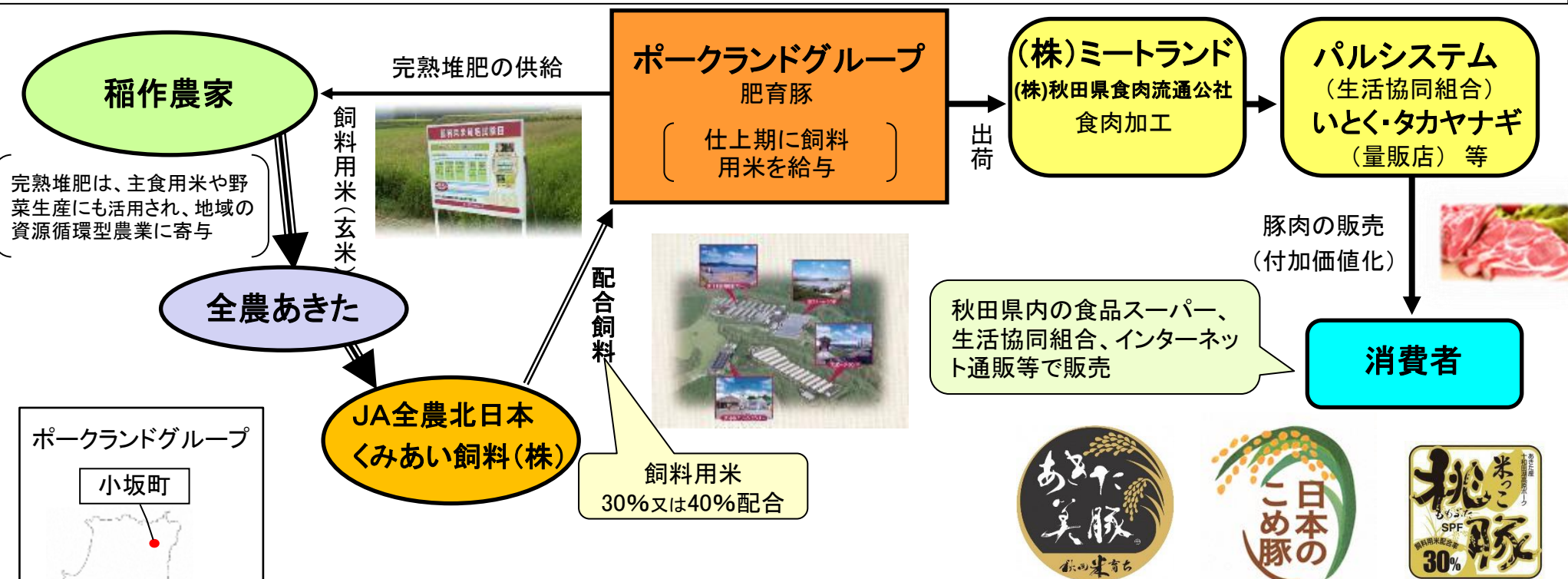
【豚】（宮城県 田尻飼料用米利用推進協議会）

- 田尻飼料用米利用推進協議会では、飼料自給率の向上と生産コストの低減を図るため、地域内の養豚農家と稲作農家が連携し、地域内で生産される飼料用米を配合飼料原料として利用する取組を平成27年から開始。
- 地域で生産された飼料用米は、(株)AGRIPRIMEで一次加工したものを母豚・哺乳豚へ、高清水養豚組合で一次加工し飼料用米入配合飼料として製造されたものを子豚・肥育豚へ給与。
- 堆肥の飼料用米生産ほ場等への還元、稲わらの地域内養牛農家への供給により、循環型農業の確立と耕畜連携による地域内農業全体の活性化に寄与。



【豚】（秋田県 ポークランドグループ）

- ポークランドグループでは、休耕田となった田を蘇らせ、食料自給率の向上を目指すことや転作を目的として、平成18年に生活協同組合パルシステムの呼びかけに応じ、地元のJAかつのと飼料用米の取組を開始。現在では、JA全農あきたが県全体で飼料用米を集荷。
- ポークランドグループでは、JA全農北日本くみあい飼料(株)にて飼料用米を30%又は40%配合した飼料を、肥育豚(仕上期)に給与。
- 生産した豚肉は、「日本のこめ豚」としてパルシステム生活協同組合連合会(パルシステム)で、「米っこ桃豚」として県内量販店等で販売。
- 飼料用米40%配合し、生産された豚肉は、令和5年4月からパルシステム「日本のこめ豚」、自社直売所及び通信販売では「秋田美豚」として販売。



○ JAかつの管内(鹿角市・小坂町)における飼料用米の生産面積の推移

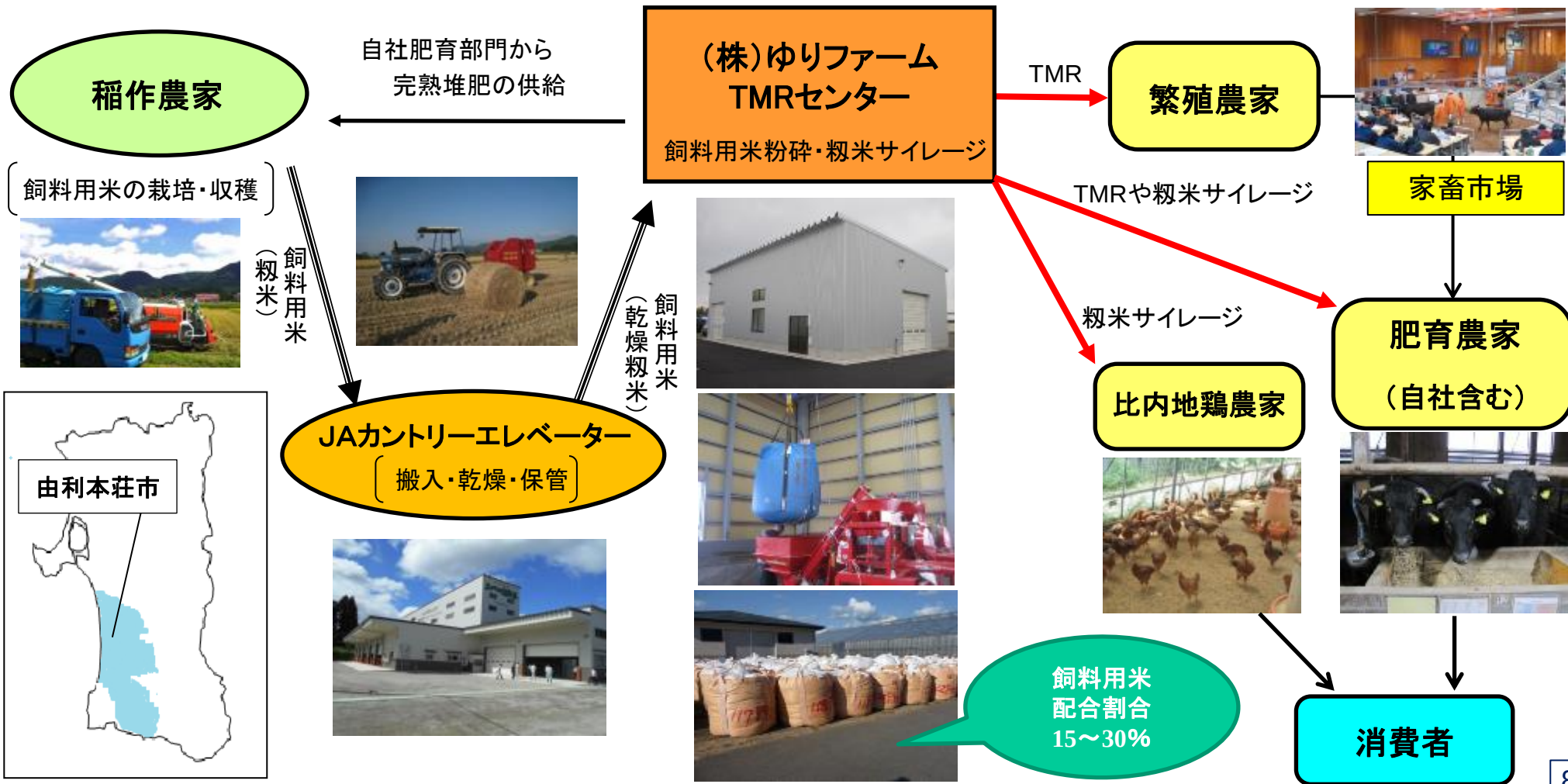
	H19	H20	H21	H22	H23
作付面積 (ha)	6	9	48	145	243

	H30	R元	R2	R3	R4
	292	267	266	454	583

【肉牛】（秋田県（株）ゆりファーム TMRセンター）

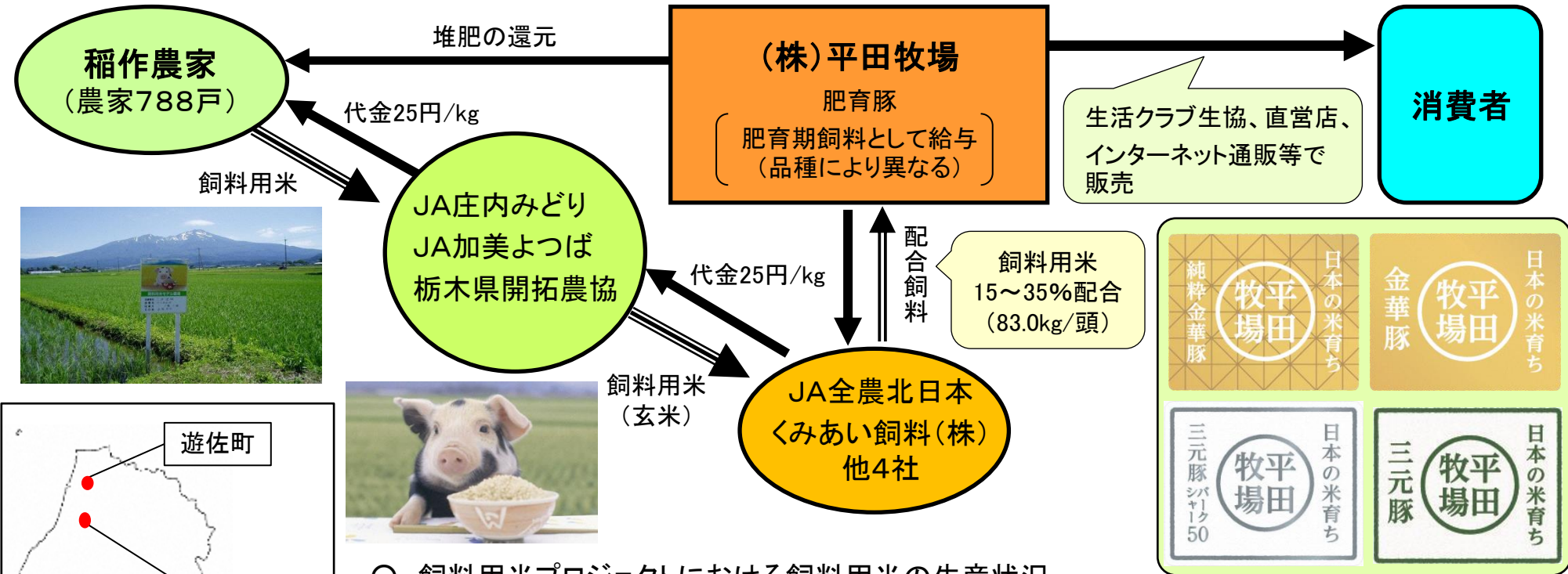
- 株式会社ゆりファームでは、地域で生産された飼料用米を地域の畜産農家が積極的に利用することを目的として、平成22年にゆり飼料用米利用組合（畜産農家4戸）を組織した後、平成24年に法人化。平成27年にTMR^(※)センターを整備し、平成28年から飼料用米が配合されたTMRの製造および販売を開始。
- 製造販売されているTMRは4種類あり、飼料用米の配合割合はそれぞれ15～30%程度。
- 発酵技術を活用したTMRを製造しており、保存性及び嗜好性、消化吸収性に優れていることが特徴。

※TMRはTotal Mixed Rationの略。粗飼料、濃厚飼料、添加物等をバランス良く混合した牛の飼料のこと。



【豚】（山形県（株）平田牧場）

- （株）平田牧場は、農地の有効活用と水田の多面的な機能による環境保全、食料自給率の向上を目的とした「飼料用米プロジェクト」に参画。
- 飼料用米の作付面積は、平成16年の7.8haから、令和4年度は2,426.3haまで拡大する見込み。
- 生産された飼料用米は、JA全農北日本くみあい飼料（株）等での配合を経て、（株）平田牧場に供給。
- （株）平田牧場では、輸入とうもろこしの代替として飼料用米を15～35%配合した飼料を、肥育豚（全頭）に給与。
- 豚肉は「日本の米育ち平田牧場金華豚」や「日本の米育ち平田牧場三元豚」として、生活クラブ生協等を通じて販売。



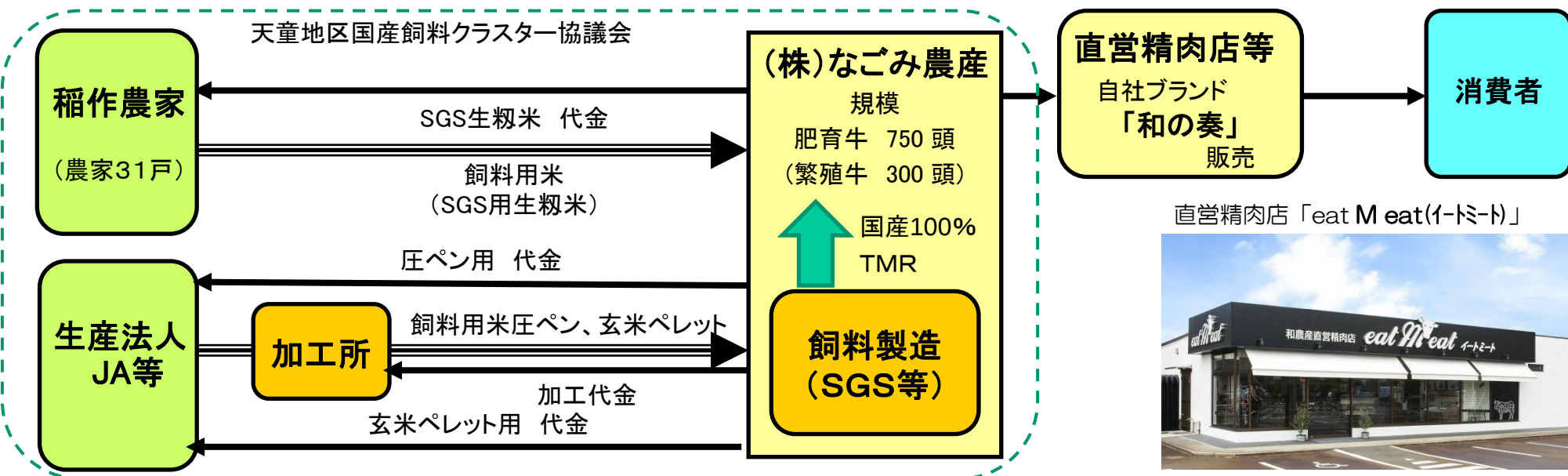
○ 飼料用米プロジェクトにおける飼料用米の生産状況

	H16	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4
作付面積 (ha)	7.8	1,305	1,626	1,885	1,994	1,997	1,879	1,809	2,215	2,426
生産量 (t)	30	7,826	9,933	12,255	11,941	11,621	11,327	10,858	13,730	14,113
単収 (kg/10a)	388	600	611	650	599	582	603	600	620	582

※H16は遊佐町の数値、H22～24は4産地の合計数値、H25からは3産地の合計数値、R4は見込数値

【肉牛】（山形県（株）なごみ農産）

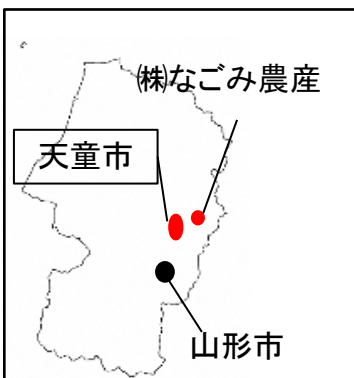
- 「安心して安全な餌で育て美味しい牛肉を届けたい」という経営理念のもと、天童地区国産飼料クラスター協議会を組織し、国産原料100%の飼料を自社で製造して黒毛和種肥育牛に給与している。
- 粳米サイレージの作付面積は、平成26年の2.9haから令和4年には73haに拡大。
- 生産された牛肉は、自社ブランド「和の奏（なごみのかなで）」として直営精肉店で販売。
- 耕種農家との連携を更に強化し、子実用とうもろこしの利用を開始。
- 本事例は、令和3年度全国優良畜産経営管理技術発表会において、最優秀賞・農林水産大臣賞を受賞。



直営精肉店「eat Meat(イートミート)」



国産飼料100%給与の
自社ブランド牛「和の奏」



○ 飼料用米(SGS用)の生産状況

	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4
作付面積 (ha)	2.9	30.6	41.4	55.3	56.0	60.5	70.5	71.9	73.0
生産量 (t)	25.8	268.7	350.0	471.0	427.0	464.0	569.6	567.9	550.0
単収 (kg/10a)	883.6	877.0	845.2	851.7	762.5	766.9	807.9	789.8	753.4